(4) 家庭や地域との連携

重点目標	・学校便りや学校公開等で情報発信し、家庭や地域からの信頼を高める ・地域学校協働本部と連携し、地域人材を活用した体験的な学習の充実を図る			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
毎月の学校便りや学期1回の学校公開等を実施し、教育活動の理解を深め、保護者の満足度を85%	3	学校だよりや公開等は計画的にできたが、学校ホームページの更新が十分ではなく課題が残った。保護者の満足度は 81%であった。特に学校ホームページからの情報発信を計画的に行い、学校の見える化を進める。	B	学校ホームページの更新は十分ではなかったが、LINEを活用し、学校だより等を発信できるようになったことは、確実に保護者の目に触れるため効果的だと思う。 地域人材の活用はとても難題であるが、重要な取り組みだと思う。
各学年で、地域人材等を活用した授業を行い、「地域の人たちに見守られている」との A 評価を65%	2	地域人材を活用した授業は十分ではなかった。計画的に人材活用を行う必要がある。A 評価は54%であった。	B	
評価のまとめ	LINE を活用しての学校だより等の発信は、より保護者の目に触れるため効果的である。学校ホームページの更新については、保護者地域の期待が高いので、学校体制で計画的に行っていく。 「地域の人たちに見守られている」との評価が大きく目標値に達していない。地域行事として実施できることが増えてきているので、積極的に児童の参加を促し地域との連携を深めていく。			

2 次年度に向けた学校経営の方向性、課題等

1　確かな学力の育成
ねらいを明確にし、振り返り活動を通して分かる授業・興味を引きつける授業の実践とともに、一人一台端末を授業内で効果的に活用するための工夫をし、児童の学習意欲を高める。また、地域未来塾（貝取小チャレンジタイム）を活用した補習授業や夏期学習会を計画的に実施し、基礎学力の定着を図る。

2　豊かな心の育成
きょうだい班活動の活動内容を検討し、児童が楽しみながら学年交流ができるようにしていく。特に上学年には高学年としての自覚と自己有用感をもたせ、自尊感情の高揚を図る。

3　健やかな体の育成
教育活動全体を通して、心身を鍛え、健康や安全に対する自己管理能力を高める指導を充実し、自他の生命の尊さに対する認識を高める。また、オリパラ教育の価値を体験的に学ぶ教育活動を行う。

4　家庭や地域との連携
教育活動の取り組みを保護者や地域に公開する行事の工夫や学校ホームページの定期的な更新を計画的・組織的に行う。また、地域学校協働本部と連携し、地域人材を活用した体験的な学習を取り入れる。

以上のとおり報告いたします。

令和5年2月22日

多摩市立貝取小学校 校長 小 川 貴 史　　公印

令和4年度　学校評価書

多摩市立貝取小学校

令和4年度 多摩市立貝取小学校 学校評価書

学校教育目標	
○人権尊重の精神と態度を養う　◎自ら学ぶ意欲や態度を育て、豊かな情操を養う ○健康でたくましい心身を育て、自立的な生活態度を養う	
目指す学校像（学校経営ビジョン）	
児童の健やかな成長を目指して、一人一人が生き生きと活動する楽しく明るい学校	
目指す子供像	目指す教師像
・進んで学び、深く考え、行動できる子 ・互いに理解し合い、協力し合って仲良くする子 ・最後までねばり強くやりとげる子 ・進んで体力向上を図り、健康や安全に気をつける子	・児童理解に努め、わかる授業を実践する教師 ・教育公務員としての自覚をもち、教育目標の達成に努める教師 ・保護者や地域と連携し、その願いに応えていく教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

(1) 確かな学力の育成

重点目標	・基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を図る ・児童自ら学ぶ機会を増やし学ぶ楽しさを体得させ、学習意欲を高める			
評価項目 （目標とする成果・指標 %）	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
地域未来塾を活用した放課後補習教室（年20回）や夏期学習会（5日間）を実施し、「授業がわかる」とのA 評価を45%	3	補習教室等は計画通り実施した。「授業が分かる」との肯定的評価は昨年度を 15 ポイント上回ったが、A 評価は 33%であった。引き続き授業改善に取り組み児童にとってわかる授業の実践を行う。	B	子供たちが理解を深め、学びを定着化させ、教育格差を少しでも減らせるよう補習教室等を今後も実施していけるとよいと思う。 見える化も保護者参加型の授業によって、もっとアピールができると思う。
ESDの視点にたち、地域人材を活用した栽培活動や環境学習を行い保護者の肯定的評価を90%	2	地域人材を活用した活動は十分行えたとは言えない。また、保護者等への情報発信も不足しており、分からないとの評価が25%あり、肯定的評価は65%であった。教育活動の見える化を計画的に行う。	B	
評価のまとめ	本校の課題である基礎的・基本的事項の定着のため、ねらいを明確にし、振り返り活動を通して分かる授業・興味を引きつける授業の実践とともに、地域未来塾を活用した補習授業や夏期学習会を計画的に実施する。 「地域学校協働本部」と連携をした地域人材を活用した教育活動を工夫して行うとともに、児童数減少の利点を生かした教育活動の進め方を検討していく。			

【評語について】

自己評価			学校関係者評価	
評語	達成状況	成果指標	評語	自己評価の適切さ
4	申し分なく達成した	90%以上～100%	A	適切である
3	おおむね達成した	70%以上～90%未満	B	おおむね適切である
2	やや下回った	40%以上～70%未満	C	適切でない
1	大きく下回った	40%未満	D	評価は困難である

(2) 豊かな心の育成

重点目標	・教科道徳の指導を充実させ、思いやりの心といじめを許さない心情を養う ・きょうだい班活動を重視し、集団への所属意識や規範意識を高める			
評価項目 （目標とする成果・指標 %）	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
道徳の授業で「思いやり」を重点とし、学期1回のいじめ防止授業を実施、「いじめはいけない」と回答する児童のA評価を80%	4	いじめ防止授業は定着し、計画的に実施している。いじめはいけないことの指導も日常的に行っている。A 評価は 93%であった。	A	いじめはいけないという心情が養われてきていると感じる。「思いやり」に加えて、人権や多様性の観点も大切だと思う。 きょうだい班活動は、児童たちの話からも上級生が下級生への思いやりや気軽に声を掛けできる環境を作っていると感じる。全学年が楽しめる活動内容を今後も検討・実施してほしい。
コロナ禍でのきょうだい班活動を工夫して行い、「きょうだい班活動が楽しい」との肯定的評価を85%	2	感染状況を考慮し、実施形態の工夫を行った。肯定的評価は76%であった。活動内容を検討する必要がある。	B	
評価のまとめ	友達に思いやりをもって接している児童が昨年度より3ポイント増え88%とに達している。引き続きいじめ防止授業と代表委員会によるいじめ防止の取り組みを行い思いやりの心情や人権・多様性について指導を深める。 きょうだい班活動は、コロナ禍でも実施できるよう工夫することができている。次年度は、活動内容を検討し、児童が楽しみながら学年交流ができるようにしていく。			

(3) 健やかな体の育成

重点目標	・心身を鍛え、健康や安全に対する自己管理能力を高める ・家庭と連携を図り、規則正しい生活習慣を身につけさせる			
評価項目 （目標とする成果・指標 %）	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
「ロング昼休み」を設け、遊びを通して心身を鍛え、「外遊びが楽しい」とのA評価を65%	4	年間を通してロング昼休みを実施することができた。外遊びでできることが増えてきた。A評価は66%であり、肯定的評価も昨年度より上回っている。	A	校庭で多くの子供が遊んでいる姿が見られる。健康のため外遊びの習慣が身につくとよいと思う。 ロング昼休みは、文武両道を目指すうえで、とても良いことと期待する。 オリパラ教育の価値を体験的に教えていこうとする教育活動を積極的に進めてほしい。
オリパラ教育の成果を生かし、緑化活動や環境保全活動を通しボランティアマインドの充実を図り、児童の行事への取り組みの肯定的評価85%	3	感染状況により、児童に緑化活動の参加を十分呼びかけられなかった。児童の肯定的評価は 82%であった。コロナ禍でもできることが増えているため、積極的に児童に声掛けをしていく。	B	
評価のまとめ	外遊びの好きな児童の割合は、年々上回っている。引き続きロング昼休みを設定することで、外遊びが十分楽しめる環境を作っていく。 緑化活動への参加等のボランティア体験は、スタンプラリーの活用などのイベント化を図り、P.T.A 等と連携し実施できるよう努める。			